

しょうがの根茎腐敗病（新発生）

令和3年6月下旬、空知地方のハウス栽培しょうがにおいて、地際部が水浸状に褐変し、茎が枯れ上がる症状が発生した。褐変した組織を検鏡したところ、組織内部に卵胞子の形成が確認された。罹病部から病原菌の分離を行った結果、PDA 平板上に無核で白色の菌糸を生じ、*Pythium* 属菌と考えられる糸状菌が分離された。分離菌はトウモロコシ煎汁寒天培地平板上で、ほうき状の付着器を形成し、遊走子のうは膨潤で分岐した。蔵卵器は平滑球形で、卵胞子は蔵卵器内を充満しなかった。培養適温は 35℃であった。これらの生態的・形態的特徴及び rDNA-ITS 領域の塩基配列により、本病原菌は *Pythium myriotylum* Drechsler と同定された。

（中央農試）



しょうがの根茎腐敗病（左：発病株、右：地際部の症状）（中央農試 小松 原図）